



町民文芸

只見短歌会

六月詠草

大塚栄一

指導

母の看取り一段落して帰る朝に柿の若葉の広がり眩し

古川 英子

妹の孫の出店のイベントに誘はれ薔薇の公園めぐる

五十嵐英子

思ひ出の写真に見入る雨の午後年重ね来し過ぎゆき偲ぶ

吉津 政枝

年長く農に生き来て節くれし手に指輪など不似合ひとなる

馬場 八智

バイク免許更新せんかと迷へども老齡者講習の申込みなす

渡部ゆき子

自衛隊に入りし孫が教育長賞貰ひしメールを繰り返し見つ

五十嵐夏美

亡き義父が手彫りをしたる六地藏に触れば石の温もりのあり

目黒 富子

姉逝きし冬の終りて木蓮の花は咲きたれど常より小さし

皆川 恒子

浴道に二種の向日葵植ゑたれば大小ありて花咲くを待つ

渡部ヨリ子

昨夜より吹き荒るる風仕入れ来し信濃つつじに容赦もあらず

新国 洋子

(出詠順)

只見俳句会

宇多喜代子先生をお迎えして

目黒十一

指導

夏の夕まだ大丈夫と子等は外
さみだるる音や一人の部屋さびし

都

恒夫

ドア開いて汗の匂いのどつと入る
父の日や男が二人酒を酌む

一穂

吉児

ジャンパーの色はブルーよ夏来たる
風に乗るジャスマシンの香や子の住まい

敦子

隆堂

ゆっくりとトマトハウスへ夏帽子
余念なく古業修理の夏つばめ

郁子

邦夫

夏草や水音遠しはせをの碑
田子倉湖ぐるつと青嵐かな

礼

康女

またひとつ更地になりてくずの庭
夏草や神社清水にコップあり

修一

笑羊

会うことのなからむ友へ夏見舞
夏の山リーダーらしき身拵え

一灯

リウコ

灯さるるキャンドルナイトや風涼し
屋根替の足場組まれる薯の花

邦男

十一

父の日や父への便り母も読み
一瞬の光雲裂くはたたがみ

又壺歩

喜代子

奥会津奥へ奥へと立葵
夏草の高き低きに水の音